

IT

「IT 好き放題」という題は好きなのだが、原稿を引き受けてから「シニアコラム」という余計な形容詞が付いていることに気がついた。まあ、還暦を過ぎてしまったから客観的には年寄りかもしれないが、JST（科学技術振興機構）の研究プロジェクトリーダーを務めており、まだまだ現役のつもりである^{☆1}。情報処理学会の「シニア会員」という称号をいただいていた報いであろうか。いずれにしても年寄りの回顧談にはしたくない。現役として書きます。

最近、学長として市内の高校巡りをしていて気づいたのだが、高校の教育においては「理系」と「文系」がかなりリジッドに線引きされている。「情報系」は当然のように「理系」に分類されているのだが、これには違和感を感じている^{☆2}。そもそも理系の定義がよく分からない。数学を駆使する経済学は文系だし、人の知能を扱う心理学も文系である。方法論ではなく、対象で分かれていると思った方がよい。人間や社会を対象とするのが人文系、自然を相手にするのが理系らしい。

そう思ったときに情報系は両方を相手にしている。ITはどちらにも使える。特に社会応用は重要である。したがって、第三の系としての「情報系」を唱えたい。先日翻訳した『Computational Thinking』（本誌2015年6月号）にも同じ趣旨のことが書いてある。

最近私は、「ITは物理法則に束縛されないので、思いつきさえすれば何でも実現できる」^{☆3}と云ってまわっている。しかし、思いつくことが実は難しい。あるいは思いついたことを伝えるのが難しい。世間の人に情報系の常識がない。最近、スマートアクセスビークル（略称SAV。仕組みとしてはフルデマンドバスに近いが、バスに限定したくないので、ビークルと呼んでいる）という新しい公共交通システム

のデザインと実装に取り組んでいる。デザインにはマルチエージェントシミュレーションが有効だ。でも、実装には人間を相手にしなければならない。これまでにタクシー会社、バス会社、自動車会社、運輸局、自治体、タクシーやバス用システムを作っている会社など、さまざまな人と意見交換をした。この部分はどう見ても理系より文系の活動だ。いずれにしても、皆さんそれぞれの分野の常識をお持ちで、我々のデザインは直ちには理解してもらえない。とある自治体の交通部長には、「どこかで実績を積み

基
般

[シニアコラム]

IT 好き放題



[No.56]

理系・文系・情報系

ないとリスクが大きくて採用できない。行政とはそういうものだ」と教えていただいた。でも、バスとタクシーの両方を合わせた運行をするSAVは、両者を完全に分離している現行の法律の下では運行できない。さあ困った。「ITは物理法則に束縛されない」が、「ITも法律に束縛される」のだった。

(2015年6月16日受付)



中島秀之 Hideyuki NAKASHIMA

公立はこだて未来大学

[正会員] president@fun.ac.jp

1983年東大情報工学専門課程修了(工学博士)。人工知能を研究。同年電総研入所。2000年産総研サイバーアシスト研究センター長。2004年はこだて未来大学長。近年は情報技術の社会応用研究を実践中。

☆1 中学生の頃、いろいろな偉人伝を読まれた。天才数学者は皆早死にで、たとえばガロア(Evariste Galois)は20歳で亡くなっている。そのため、30歳を過ぎると研究はできないと思い込んでいた。しかしながら、「情報系」は経験がものを言うことを知った。プログラミング能力は衰えても、経験や視野の増大でそれを補完するものがある。

☆2 しかしながら、「SEは文系の人でも務まります」というスローガンは嘘だと思う(少なくとも現行の文系では)。大規模なプログラミングができないとダメ。

☆3 「愛は物理量ではないので2で割っても半分には減らない」と言ったこともある。